



緑の架け橋

会報第3号

2003年12月20日

現地調査団を派遣（9月）

緑はしっかりと根付いていました！

～第2回総会で次年度の派遣計画も確認～



現地ではこの春に植えられた木々がしっかりと根付いていました（寧夏回族自治区・紅寺堡にて）
会報創刊号1ページ掲載の場所。2003年9月15日

残念ながら、SARSの影響で今年度の3次に渡る派遣団は中止せざるを得なくなりましたが、既に現地の人たちの手で進められている植林活動の進行状況の確認と、「来年こそは今年分まで成功させよう」との思いから、SARSの沈静化を待って、現地調査団を9月13日から17日にかけてプロジェクト実施地である寧夏回族自治区・紅寺堡地域に派遣してきました。

1年前の調査時には一面の砂だらけで「本当にこんなところに植物が育つのだろうか」と思われましたが、今回現地に足を踏み入れた調査団一行の前には、まだ細く3メートル足らずではあるものの、この春に植林されたアカシアやポプラの木々が、緑の葉を生き茂らせて、しっかりと大地に根を下ろしている様子が現れ、初年度の取り組みの成果が実感されました。

また、11月13日には、これら現地調査団の報告会を兼ねて、緑の架け橋推進センター第2回総会が開催され、初年度の取り組み報告を全体で確認するとともに、3年計画の2年次となる2003年度の活動計画・予算を決定してきています。

今号では、現地調査報告と総会での決定事項をお知らせします。

引き続き、緑の架け橋推進センターの活動にあたたかいご支援・ご理解をいただくとともに、来年度の活動にも積極的な参加をお願いします。



緑の架け橋推進センター

中国植林緑化活動協力事業

寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333辻ビル405 TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079

取引口座 中央労働金庫市ヶ谷支店 0858119

現地調査団報告

「百聞は一見にしかず」を実感！

雄大な中国と植林緑化活動の意義を再認識



寧夏回族自治区森林局長の馬氏と調査団
(左から樋谷・高端・馬局長・鎌田・藪の各氏)

【現地調査日程】

2003年9月13日(土)～17日(水)

【現地調査団メンバー】敬称略

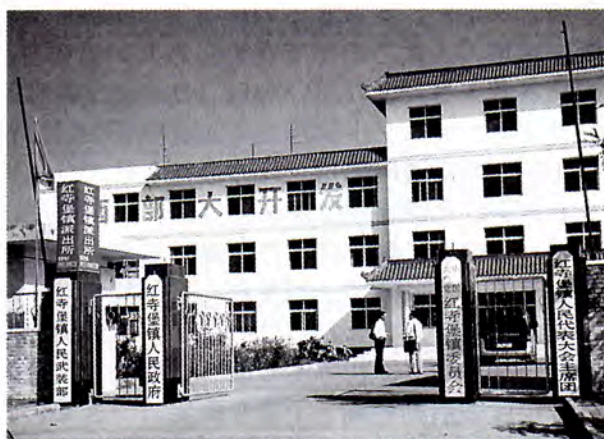
高端 照和 (センター常任委員・自治労)
鎌田 篤則 (センター事務局長)
樋谷 綱規 (自治労)
藪 英一 (自治労)

上海・西安経由で寧夏回族自治区・銀川へ

今回の現地調査団は上海に飛び、そこから空路で西安に行き、一泊して寧夏回族自治区の首都である銀川市に入り、プロジェクト実施地である紅寺堡へ向かった。

銀川市から紅寺堡までは約140キロの距離で高速道路を使って約2時間ほどかかる。銀川を出発し1時間もすると車窓にひろがる景色が変わってきた。建物はなくなり荒れた土地が広がる。想像していた砂漠とは違い、ところどころ雑草が生え、西部劇に出てくる荒野という感じだ。中国では岩がゴロゴロしているような砂漠のことを特に区別して「沙漠」と呼んでおり、国内の砂漠のほとんどが「沙漠」の特徴を持っている。

1年前の調査時には建設中だった紅寺堡の高速道路出口が完成しており、以前に比べ便利になったようだ。街に入るとまだ道路や建物の工事があちこちで進んでいるが、既に立派な街並みができあがっていた。



紅寺堡鎮人民政府の庁舎

寧夏回族自治区森林局長・馬氏から聞いた紅寺堡の街づくり

まず、寧夏回族自治区人民政府庁舎を訪れ、現地責任者の馬・森林局長から街づくりや植林事業の状況について聞いた。

紅寺堡地区は、以前は砂漠だけで何も無かったそうだが、5年前に馬局長をはじめとする20人

が開拓団として入って街づくりを進めてきた。当時、周辺には小さな集落単位で農業を営む人々が点在し、それぞれ思いおもいにわずかな森林を開拓し田畑を作って生活していたが、生産力は低く、無計画な森林開拓が環境を破壊する状況となっていた。そうした人々の紅寺堡地区への移民・定住を進め、今では14万2千人が移民を完了した。中国政府はこうした人たちの生活保障のため、農業生産力の向上を図ると同時に、換金作物（商品化できる農作物）の育成を推進している。また、現地での植林緑化事業もこうした人々の協力が進められており、計画では2005年までに20万人の移民・定住を行っていくこととされている。

気候については、調査団が訪問した9月は年間でも過ごしやすい時期だそうで、気温は30度ほどだが乾燥しているため暑さは感じなかった。冬から春にかけては強風が吹き、生活環境は厳しさを増すそうだ。年間降水量は200ミリほどで、1日中雨が降るといような日は無く、傘を持っている人もいないらしい。

いよいよ現地で植林の進行状況を確認

紅寺堡の街の中心から植林緑化事業の行われている場所までは車で10分足らず。まず、今年の春から植林作業が進められている所を見せていただいた。



1年前の調査団報告では、一面の沙漠が広がり「砂だらけ」だった場所だけに、現地から送られた写真では植林が進んでいることが確認されていたとはいえ、実際に現地に行ってこの目で見るまでは「本当にうまくいっているのだろうか」と不安が大きかった。

しかし、100haの広さにポプラ・アカシアなどが約10万本植えられ、それらがしっかりと大地に根を下ろし、緑の葉をつけている姿を見たとき、安心すると同時に自分たちのやろうとしていることの素晴らしさを実感した。



実際に木を植えるまでには、整地、用水路整備、苗木を植えるための穴掘り、散水といった作業が必要で、ほとんどが現地・紅寺堡の人たちの手作業で行われている。

また、土壌を改良し保水力を高めるため、イバラやヒマワリなど、乾燥に強い下草を育てることも行われている。

水は40キロ離れた黄河から、4ヶ所のポンプ場・8ヶ所の小ポンプ場を水路で結んで紅寺堡地区まで引いている。



次年度の事業予定地も視察

続いて、来年度に植林予定の地域も視察した。

既に、整地や水路の準備が進められており140haの広さに23.88万本の新たな植林が行われることとなっている。作業はかなり大変で、苗木を植えるための穴掘り作業などは、一人1日で最高40個、土地が硬い場合などは10個ほどしか掘れないらしい。また、用水路も散水期間以外には風で舞い上がる砂に埋もれてしまい、その都度掘り返すことが必要になるそうだ。

気が遠くなるような作業の連続となるが、木々が順調に育ってくれば土壌の改善も進み、砂の飛散といった問題も解決していく。新たに病虫害の発生などの問題も危惧されるが、緑化成功にむけた現地の人々の情熱と努力で乗り越えられると確信している。

現地を訪れてみて、沙漠以外に何もなかったところに、移民、街づくり、植林、農作物の育成を進めようとする植林プロジェクトは、本当に壮大で偉大な計画だと強く感じた。現地の人たちの熱い気持ちを直接聞き、現状を見ることができた有意義な視察だったと思う。来春の植林の時には、日本からの派遣団も一緒になって汗が流せるように、日本と中国の人々が手を取り合って、このプロジェクトが成功するように切に祈りながら現地を後にした。

(調査団報告は樋谷氏の報告文をもとに事務局でまとめさせていただきました)



上:2002年度プロジェクト場所

下:2003年度(2003年11月~2004年10月)プロジェクト予定地



来年こそ、あなたも現地で植林に参加しよう!

緑の架け橋推進センター第2回総会を開催

2004年4月・9月の植林派遣など活動計画を決定

緑の架け橋推進センターは、11月13日に東京・麹町会館において第2回総会を開催し、02年度の活動経過・決算を確認するとともに、新年度の活動にあたり「2003年度活動計画」及び「2003年度予算」を決定しました。また、新役員体制も確認されました。

【活動経過】

11月12日の結成総会を受け、具体的活動をスタートさせたものの、第1次派遣団の出発直前のSARS禍により、結局、第3次までの派遣団すべてを中止せざるを得なくなりました。植林派遣活動ができなかったことが会員募集の低調さにもつながり残念な初年度となりました。

しかし、寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト自体は、日中緑化交流資金からの助成金の半額を既に送金し、寧夏回族自治区・紅寺堡の現地では人民政府・ボランティアの協力も得て、初年度の植林緑化活動が順調に進められています。9月には現地調査団も派遣し、来年度の派遣にむけた現地調査も行ってきたところです。

なお、常任委員会を2回（12月・6月）に開催、会報を2号発行（1月・7月）したほか、適宜、事務局での打合せ会議などを行い、1年間の活動を取り組んできました。

【02年度収支報告】（予算02年11月21日～03年8月31日、決算02年11月21日～03年11月11日）

収 入

費目	予算(円)	実績(円)	摘要
会 費	1,470,000	477,000	個人87口、団体72口
植林協力金	600,000	70,000	
賛助金	100,000	380,000	技術者派遣経費として
預かり金	—	301,000	アイエフシーより
利 息	—	2	
合 計	2,170,000	1,228,002	

支 出

費目	予算(円)	実績(円)	摘要
事務所間借代	200,000	0	
通信・送料	340,000	90,570	電話代、切手代
事務局費	220,000	101,784	行動費、会場費
印刷代	42,000	399,097	会報、調査報告書、チラシ
備品・消耗品	25,000	20,875	印鑑、スタンプ、文具類
寧夏プロジェクト資金	983,000	380,000	プロジェクト自己資金へ
返済金	—	71,000	借り入れ金返済
予備費	360,000	420	
合 計	2,170,000	1,063,746	

収入－支出＝164,256円

【2002年度貸借表】 単位・円

貸方		借方		借り方の説明
通帳	45,986	預り金	270,000	協力金、立ち上げ資金
現金	118,270	未払い金	843,000	02年度プロジェクト資金、事務所間借り代
	164,256		1,113,000	

貸方－借方＝△948,744

【寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト・2003年度の事業計画】

2003年度の寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト（事業主催／IFCC国際友好文化センター、推進協力／緑の架け橋推進センター）については、3年計画の第2年次となるが、活動意義が認められ、日中緑化交流基金から昨年（980万円）を上回る1,410万円が助成されることとなった。計画の総事業経費のうち、1,410万円は助成金を充て、残り270万円が自己資金となるが、日本側でこのうち69万円を負担（前記予算のプロジェクト資金）することとする。

区分	事業量	事業経費	助成経費	摘要
植林	23.88万株（140ha）	11,752	11,035	苗木購入、植え付けなど
保育	のべ3360日	268	0	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	農薬散布機5台等	492	335	造林用作業具、農薬散布機、肥料等
基盤整備	灌漑水路1.9km	2,640	2,010	灌漑水路整備
その他		268	0	技術指導費、測量計画設計費など
小計		15,420	13,380	
事務経費		680	320	
技術者派遣	2人	700	400	
合計		16,800	14,100	

経費の単位はすべて千円。1元=13.4円で換算。

【2003年度の役員体制】 敬称略・順不動

会長 佐藤 晴男（前・自治労共済理事長）

副会長 丸山 建藏（全農林労働組合委員長）
 足立 則安（全水道労働組合委員長）
 新田 豊作（NHK労連議長）
 渡辺 充（政労連委員長）
 君島 一字（自治労副委員長）

技術 丸山 建藏（全農林労働組合委員長）
 相談役 足立 則安（全水道労働組合委員長）
 阿部 保吉（全林野労働組合顧問）
 君島 一字（自治労副委員長）



第2回総会の模様 03・11・13 於：東京

常任委員 吉田 喜美夫、岡崎 徹、豊島英三郎、佐藤 厚夫、立石 元、杉本 浩一、
 高端 照和、西岡 裕、鎌田 篤則、宮秋 道男、田中 毅、竹花 恭二、
 石川 昇、登坂 崇規、吉川 元

会計監査 太田 敏夫

顧問 村山 富市、重野 安正、又市 征治、菅野 哲雄、金子 哲夫、東門美津子

事務局長 鎌田 篤則
 同次長 佐藤 厚夫、田中 毅、山内幸一郎

緑の架け橋推進センター 会員募集

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333辻ビル405
TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079

沙漠を緑の大地に

中国では毎年、東京都に匹敵する面積が沙漠化しており、農牧業をはじめとした住民生活への被害や、土砂流出による洪水被害などが深刻となっています。植林により緑化を進めることはこうした被害を食い止めるとともに、大気中の二酸化炭素を吸収し酸素供給を増やすこととなり地球環境保護の最も有効な手段です。

緑化事業を通じた人と人の交流を

緑化は、単に緑を増やすだけでなく、食糧問題や貧困問題、環境問題など地球的規模の課題への一つの解決策といえます。さらに、戦争のない平和な社会をつくりあげるためには、国境を越えた人と人との相互理解と協力関係が不可欠です。緑の架け橋推進センターは中国での植林緑化事業への協力を柱に、両国の友好と平和の創造にむけ、会報発行や懇談会・講演会・展示会の実施などに取り組んでいきます。

活動を支えるのはみなさんの暖かい心です

当センターの活動は、基本的にボランティアにより行われるほか、緑化協力事業に必要な資金は賛助団体及び個人からの会費と寄付金、公的団体などからの助成金でまかなわれる予定です。

まさしく、みなさんの暖かい支えがあってはじめて、沙漠に一本一本の木が植えられ、それらが育つことで貴重な緑の大地がよみがえることにつながるのです。

ご協力いただける方(団体)はいますぐ会員登録を！

当センターの目的と活動にご理解・ご協力をいただける方(個人・団体)であればどなたでも会員に登録できます。会員の方(個人・団体)には会報等を通じて、各種活動のご案内をはじめとした様々な情報の提供と植林活動への参加を呼びかけさせていただきます。

年会費は一口3,000円で何口でも申し込みいただけます。会員登録希望の方は、下の会員登録申込書に必要事項を記入のうえ、推進センターまで郵送又はFAXで送付してください。同時に、年会費について、下記の振込先にお振込下さるようお願いいたします。

【年会費振込先】

中央労働金庫市ヶ谷支店 普通口座0858119

「緑の架け橋推進センター」

切り取り線

緑の架け橋推進センター 会員登録申込書

氏名・団体名 (団体は代表者名も)	
ご住所	〒 —
連絡先電話番号	電話 FAX
会費申し込み数	—□ 3,000円× □ 合計 円分
備考	